

第8回独立行政法人契約監視委員会

平成27年7月
独立行政法人経済産業研究所

1. 日時

平成 27 年 5 月 13 日(水)15:10～16:45

2. 場所

独立行政法人経済産業研究所会議室

3. 出席者

(1) 委員

白山委員長、向委員、鈴木監事（後日書面審査 八田監事）

(2) 独立行政法人経済産業研究所

中島理事長、金子総務ディレクター、齋木総務副ディレクター、吉住
管理担当スタッフ

4. 議事

(1) 開催挨拶：中島理事長

(2) 経済産業研究所の契約状況について

・平成 26 年度の契約内容及び契約方式の状況

5. 概要

(1) 開催挨拶

冒頭、中島理事長から開催挨拶が行われた。

(2) 経済産業研究所の契約状況について、事務局から説明後、質疑が行われた(主な質疑については別紙参照)。なお、個別の契約に対する指摘はなかった。

(別紙)

質問・意見	回答
■競争性のない随意契約理由及び契約価格の妥当性	
<p>＜他機関との共同研究＞ ＜平成 26 年度「我が国の貿易構造の変化と企業の国際化活動に関する調査研究」に係る共同研究契約：国立大学法人京都大学＞</p>	
<ul style="list-style-type: none">京都大学との共同研究の協定期間はどのくらいか。	<ul style="list-style-type: none">本協定期間は 5 年間あり、2017 年 6 月まで締結している。これは京都大学の経済研究所に、先端政策分析研究センターというところがあり、そこが政府関係機関からたくさん人を受け入れて政策研究をやっていることから、ここ以外には共同研究するところがないという状況である。
■一者応札・応募となったものの状況	
<p>＜委託調査＞ ①平成 26 年度「経済産業研究所データベース業務」に係る請負契約：株式会社価値総合研究所＞ ②＜平成 26 年度「日本におけるサードセクターの経営実態に関するアンケート調査」に係る委託契約：株式会社東京商工リサーチ＞ ③＜平成 26 年度「企業・従業員マッチパネルデータを用いた労働市場研究調査」に係る委託契約：株式会社東京商工リサーチ＞</p>	
<ul style="list-style-type: none">入札説明会に参加した業者名をそれぞれ確認したい。落札率について、それぞれ確認したい。(業務内容・落札率・入札説明会時の状況・複数回を経ている継続調査である等といった全体像からみて) 競争性やコスト抑制の働きが実質的に働いている状況であり、落札率が比較的高い案件は、原価ぎりぎりに行きついている可能性もあるのではないかといった印象。	<ul style="list-style-type: none">説明会参加者数及び業者名を回答。落札率を回答。

<p>< 職員派遣契約 ></p> <p>①ウェブ・編集担当:株式会社オレンジネット</p> <p>②コンファレンス・国際担当:ヒューマンタッチ株式会社</p> <p>③情報システム担当:クロス・ヘッド株式会社</p> <p>④広報・編集担当:株式会社リクルートスタッフィング</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 職員派遣募集の時期にばらつきがあるが RIETI 側の要因なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 派遣途中でのスタッフ退職に伴い、派遣元から（交代者が見当たらず）契約を継続できないといったケースや、応募がゼロ件となり再度募集を行うケースなどから、ばらつきがある状況。
<p>< 情報システム関連 ></p> <p><ファイルサーバー統合管理ソフトウェア（GDMS）売買契約：株式会社システナ></p>	
<ul style="list-style-type: none"> 落札率について、確認したい。 落札率から購入価格の適正性を検討するうえで必要な視点を（今後に向け）あげるとするならば、製造元が1つであるような調達では、販売店同士の横断的な関係や、さらに製造元と販売店といった関係が「市場」には存在するため、複数応札へ向けた発注側の取り組み次第によっては、各社の見積価格や取引行動を調整するといったことを（意図せずして）呼び起こしてしまう可能性を完全には否定できないため、落札率の他、数字(金額)以外の商慣行なども含め、広く調達全体を検討することが必要なのではないかとといった印象。 	<ul style="list-style-type: none"> 落札率を回答。